

事業の概況

■ 経営環境

平成26年度我が国経済は、消費税率引き上げの影響が長引き、個人消費の停滞が続く局面が見られましたが、消費税の再引き上げが平成29年4月に延期されたことや、企業収益の改善が賃上げに繋がるとの見方から、緩やかな回復基調を辿りました。

こうしたなか、日経平均株価は、消費増税後の景気の落ち込み、地政学リスク、欧州の景気不安といった様々な問題を抱えながらも、日銀の追加金融緩和による円安進行や公的年金の買いによる下支え効果に、米国の景気回復が加わり、15年ぶりとなる1万9千円台後半まで上昇、円相場も一時的に122円台に達し、7年8ヵ月ぶりとなる円安ドル高水準を付けました。また、日銀が長期国債の買い入れ額を拡充するとともに、買い入れる国債の期間を長期化したことにより、長期金利は過去最低を更新する水準まで低下いたしました。

平成27年度も、堅調な企業業績を背景に雇用拡大・実質所得が向上し、緩やかな回復基調を維持するものと見込まれる一方で、原油安における産油国での財政悪化や中国の景気減速といった懸念材料も持ち合わせており、回復基調の維持に向けて正念場を迎えている状況にあると思われれます。

我々系統を取り巻く環境につきましても、正組合員の高齢化による離農拡大に加え、「TPP(環太平洋連携協定)交渉の動向」や「農政の転換」、「JA改革」に関する議論など、予断を許さない状況にあります。

また、系統金融を取り巻く環境は、金融サービスの競争激化など、依然として厳しい状況にあり、リテール金融市場においても、人口減少による市場の縮小や低迷局面を睨んだ金融機関同士の顧客争奪競争が、益々厳しさを増しております。

こうした情勢のもと、当会は平成26年度事業方針に基づき、「安定的収益還元機能の強化」および「JAバンクえひめ本部機能の強化」に取り組みました。

収益還元機能の強化については、有価証券、貸出の効率運用に努めました。有価証券運用では、金利上昇リスクに備えるとともに、低金利の長期化リスクも視野に入れた運用方針とし、低金利下での国内債投資を抑制する一方、他の商品へのシフトを行うなどリスク分散を図り、長期安定収益の確保に努めました。

JAバンクえひめ本部機能の強化については、貯金、ローン、年金および給与振込の県下統一キャンペーンの企画および推進支援を行いました。

また、地域貢献活動として、「愛媛マラソン」や「えひめ・まつやま産業まつり」、「瀬戸内しまなみ海道・国際サイクリング大会」などの地域イベントへの協賛を行ったほか、JAバンクアグリサポート事業の展開として、教材本贈呈事業、教育活動助成事業の支援を行いました。

加えて、新たな取組みとして、組合員や地域利用者の高齢化が進行していくなか、地域密着を基本とするJAの地域活動などによる「買い物弱者」への支援と、JAの窓口における高齢者への「振り込め詐欺」未然防止のための声掛け支援によるダブルサポート施策を展開いたしました。

以上のような取り組みの結果、経常利益、当期剰余金ともに計画を上回る実績を収めることができました。

業績

平成27年3月末の県下JA貯金残高は1兆7,561億円となり、前年同月比435億円増加しました。

JA貸出金残高は3,162億円となり、前年同月比14億円増加しました。

当会のJA等からの資金調達では、平成27年3月末貯金残高は1兆3,401億円となり、前年同月比169億円増加し、平成26年度期中平均残高は1兆3,321億円で、前期比382億円増加しました。

一方、資金運用では、農林中金等への預け金残高は8,745億円となり、前年同月比346億円減少し、期中平均残高は8,988億円で、前期比366億円増加しました。

貸出金残高は916億円となり、前年同月比15億円減少し、期中平均残高は928億円で、前期比2億円減少しました。

有価証券残高は4,438億円となり、前年同月比657億円増加し、期中平均残高は3,711億円で、前期比10億円増加しました。

事業収支では、経常収益は169億3千8百万円、経常費用は120億1千5百万円となりました。この結果、経常利益は49億2千3百万円で、前期比4億5千6百万円の増益となりました。また、当期剰余金は40億2千4百万円で、前期比5億1千3百万円の増益となりました。

トピックス

● JAバンクえひめロールプレイング県大会

東京第一ホテル松江コスモホールにて、平成26年10月30日に「JAバンクえひめ MA ロールプレイング県大会」を、11月5日に「JAバンクえひめ 窓口担当者ロールプレイング県大会」を開催しました。

今後も、ロールプレイング県大会を通して、お客さまによりよい提案ができるよう技術の向上に努めて参ります。



● 春の年金花道キャンペーン

JAバンクえひめでは、平成26年4月15日から5月30日まで「春の年金花道キャンペーン」を実施しました。

また、JA年金受給者・予約者を対象とした「南こうせつ 冬の祭典Withフレンズ」(平成27年2月24日)を開催しました。

さらに、年金友の会会員向けの会報誌「ゆとりんく」を年2回発行しました。



● 給与振込はJAにおまかせキャンペーン

JAバンクえひめでは、全国の給与振込キャンペーンに呼応し、平成27年2月1日から5月31日まで「給与振込はJAにおまかせキャンペーン」を実施しました。



● 個人貯金増強キャンペーン

JAバンクえひめでは、県下統一で平成26年6月13日から8月29日まで「うわのせ夏福ふくキャンペーン」を、平成26年11月4日から12月30日まで「うわのせ冬福ふくキャンペーン」を実施しました。

夏と冬、県下統一で定期貯金を販売し、JAバンクえひめが一体となり、個人貯金の増強に努めました。



● JAバンクえひめ俳句コンテストの開催

JAバンクえひめでは、県下JAで年金を予約・受給されている方の趣味を応援することを目的に、平成26年4月15日から7月31日まで「JAバンクえひめ俳句コンテスト」を実施しました。

県内から多数の応募があり、その中から高石幸平先生【「柿」主宰(ホトトギス同人)】に選句していただき、入選された10名の方には、賞状と農産物をプレゼントしました。



● JA直売所スタンプラリーの開催

JAバンクえひめでは、愛媛県産を代表とするJA直売所の魅力を幅広くPRするとともに、新たな利用基盤の拡充を図ることを目的として、平成26年4月26日から8月31日までJAグループ愛媛直売所ネットワークに参加している15ヶ所のJA直売所を対象とした「JA直売所スタンプラリー」を開催しました。

なお、応募総数2,277通の応募者の中から当選者を選び、豪華商品をプレゼントしました。



● JA住宅ローンご利用感謝訪問の実施

JAバンクえひめでは、JAの住宅ローンをご利用いただいているお客様を対象にアンケートを実施し、回答者の中から抽選で県下400名様に農産物などのプレゼントを行いました。



● ライフサポートキャンペーン

JAバンクえひめでは、マイカーローンおよび教育ローンについて平成26年10月1日から平成27年4月30日まで県下統一金利によるキャンペーンを実施しました。



● JAバンクえひめ住宅ローン営業担当者会議

ホテルJALシティ松山にて、平成26年11月17日に「JAバンクえひめ住宅ローン営業担当者会議」を開催しました。

会議では、県下12JAの住宅ローン担当者による「住宅関連会社営業」や「ローン推進業務」についてのグループディスカッション、事例発表などを通じて、情報の共有化と意識統一を図りました。



● JA経営セミナー

平成26年9月11日に県下JA役員、幹部職員、联合会、系統関連組織の方々を対象にした「JA経営セミナー」を開催しました。

元プロ野球選手でスポーツコメンテーターの広澤克実氏を迎え『私の野球人生 3人の名将（野村・長嶋・星野）に仕えて』というテーマで、3者3様のリーダーの下で感じたリーダーシップや組織マネジメント術、人材育成方法などに参考となる講演を行いました。



● J A相続対策セミナー

平成26年11月14日に「J A相続対策セミナー」として、県下J A信用事業本所（店）部課長およびスタッフ、支所（店）長等を対象に、相続対策ツールとしてのJ Aバンク版エンディングノート「いまから帳」の活用方法・書き方について、農林中央金庫顧問 山根行政書士等による相続貯金の流出防止などの参考となる講演を行いました。



続いて、平成27年2月16日には「高齢者の財産管理と遺言」を主なテーマとして、当会顧問 松下司法書士によるJ Aの組合員の相続対応などの参考となる講演を行いました。

